

令和元年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 大分市立佐賀関小学校・大分市立佐賀関中学校 ）

1 学校の情報

(1) 学校規模

佐賀関小学校：学級数 7 児童数 70人 職員数 13人

佐賀関中学校：学級数 4 生徒数 40人 職員数 11人

(2) 分掌の位置づけ

防災教育モデル実践委員 83名

防災教育担当者及び研究主任 佐賀関小学校：下郡 佳子、柳谷 淳

佐賀関中学校：田崎 圭(研究主任兼務)

(3) 地域環境

大分市の東部にある佐賀関半島の付け根に位置する佐賀関小・中学校区は、海と山に囲まれた地域であり、南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合、地震による津波や、土砂災害が想定されており、住民の安全確保や緊急時の連絡体制等、防災体制の整備や防災教育のより一層の充実が求められる地域でもある。

2 取組のポイント

○本市における防災教育は、防災教育のねらいに基づき、防災士の資格を持つ防災教育担当教員等が中心となり、地域の特性や実態を十分に踏まえた計画を立てたうえで、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等において、発達の段階に応じて計画的に実施する。

【1】教育活動全体を通じて、「主体的に行動する態度」を育成するための教育手法や緊急地震速報等の防災に関する関係機関が有する各種情報ツール等を活用した避難行動に係る指導方法の開発・普及に関する研究を行う。

【2】学校待機及び引き渡し訓練や安否確認訓練等、学校の安全管理体制の構築について研究を行う。

【3】先進的实践校を視察し、年間指導計画や学校防災マニュアルの作成等について学ぶとともに、防災教育（安全学習）の効果的な指導方法や学校安全の3領域に関する知識及び手法等の習得を行い、小中合同研修等を通して教職員の防災意識の向上に努める。

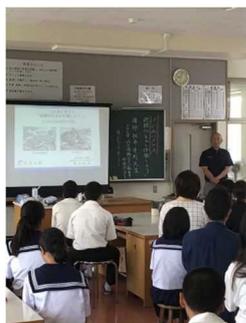
【4】本事業における取組を佐賀関地域に定着・深化させるとともに、本事業での成果を市内の他の学校（学園）にも情報等を共有し、次代の安全文化の構築に取り組む。

3 具体的な取組

実施時期	実施事項	内容等
4月	通学路合同点検	関係機関と協力
5月	小中合同研修会	モデル実践事業の内容説明及び共通理解
6月	防災教育コーディネータ研修会	講義及び実践発表
6月	ふれあいPTA	避難所生活を体験しよう
7月	実践委員会	事業内容の確認及び今後の予定等
7月	先進校等視察	京都市立養徳小学校、人と防災未来センター
8月	小中合同研修会	学校周辺(通学路)の減災点検演習
8月	被災地視察	津久見市、臼杵市
10月	実践委員会	これまでの取組及び今後の予定等
10月	小中合同研修会	被災地視察等の還流報告、公開授業について
11月	小中合同研修会	先進地等視察の還流報告、公開授業について
11月	小中合同合唱練習(2回)	「花は咲く」
11月	公開研究発表会	参加者75名
1月	全市一斉防災とボランティア週間避難訓練	全市立学校(学園)で実施
1月	実践委員会	研究の振り返り(成果と課題)

(1) 「防災」をテーマとしたふれあいPTA

災害発生時に、どのような避難行動をとる必要があるのかを理解し、自分の命を自分で守ることができるための知識と行動の仕方等を親子で学ぶとともに、実際の避難所生活について、具体的なイメージを膨らませ、実習をすることができた。



【制作した簡易トイレ】

【非常食(アルファ米)試食】

(2) 小中合同研修

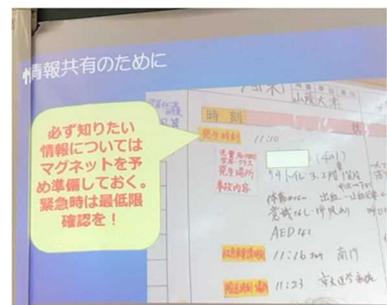
- ・第1回研修会 本年度の研究主題「生き生きと主体的に学び合う関っ子の育成」～9年間を見通した防災教育の在り方を通して～を確認し、防災教育の充実に向けた研修計画等を確認した。
- ・第3回研修会 防災・環境教育ラボ代表上山容江氏と県教育庁学校安全・安心支援課副主幹井上哲一氏を講師にお招きし、「学校周辺(通学路)の減殺点検演習」を室内でグーグルマップを活用し、行った。



(3) 先進校等視察

・京都市立養徳小学校（セーフティープロモーションスクール）

「気づき、考え、判断し、行動できる子の育成」～話し合い・伝え合うことを大切にできる子～を研究主題とし、学級活動や総合的な学習の時間等において、安全に関わる内容の学習を含めた「安全学習」と、学校行事や課外指導等での「安全指導」の充実を図っており、きめ細やかな取組が行われている。



・人と防災未来センター

阪神・淡路大震災発災後の当時の様子や復興していく街並みなどわかりやすく展示等されており、阪神・淡路大震災の経験とこの震災で得た教訓を継承し、防災・減災の実現のために必要なことについて学ぶことができた。



(4) 被災地視察

平成29年9月17日、台風18号により甚大な被害を受けた大分県津久見市及び臼杵市を訪問し、当時の被害状況や行政としての対応、土砂崩れをくい止める砂防ダムの建設などについて詳細に説明を受け、自然災害を現実のものとして捉えることができた。



(5) 安全マップづくり

各学年の発達段階に応じ、総合的な学習の時間等において地域に出かけ、避難場所やがけ崩れ等の危険な場所の位置等を確認し、調べた内容をわかりやすく地図にまとめた。



4 取組における成果と課題

(1) 成果及び課題

○地域の現状を再確認

- ・ 佐賀関地域は、大分市の東端に位置し、豊後水道を挟み愛媛県の佐田岬と対峙。
- ・ 3方向を海に囲まれた山がちな地形が特徴。平地は少ない。
- ・ ここ数年、全国各地で大雨による土砂災害、洪水被害等のニュースが多く、他人事ではない。

①避難訓練

【成果】

- ・関係機関(東消防署佐賀関分署等)との連携や公用携帯電話を活用した避難訓練を計画的に取り組んでいる。
- ・様々な災害状況を設定し避難場所の確認を随時行い、状況を正しく判断できるよう訓練に取り組んだ。

【課題】

- ・生徒自身が自分で考えて行動できるようになる部分と、大人である教職員が生徒の安全を守る部分を整理する必要がある。
- ・日常的な実践における工夫と教職員の意識の向上がさらに必要。

②防災学習

【成果】

- ・安全(防災)について、各学年の発達段階に応じてねらいを明確にし、創意工夫した学習に取り組んだ。
- ・避難経路や地域の状況を実際に調査し、ハザードマップ等を作成することができた。
- ・重ね読みの手法を使って、多くの種類の著書を分担してレポートにまとめることができた。

【課題】

- ・生徒自身が自分で考えて行動できるようになる部分と、大人である教職員が生徒の安全を守る部分を整理する必要がある。
- ・日常的な実践における工夫と教職員の意識の向上がさらに必要。
- ・防災学習で学んだ知識や行動等の活用(広がり)

③先進校等視察

【成果】

- ・実際に被災地等を訪れ、現地の見学や実際の話聞くことで、災害を現実のものとして捉えることができた。
- ・自分の身にいつ起こってもおかしくないということを実感できた。
- ・災害に遭った時に自分たちがどうするか、災害に遭った後の行動や生活について、考えるきっかけとなった。

【課題】

- ・実際大規模な災害に直面した時に、どのような行動をとれば自分の命を守れるのかを1人ひとりが具体的にイメージできるようにすること。
- ・教育課程(学習計画)との位置付け。

④小中合同研修会

【成果】

- ・校区の安全マップ作成時のポイントなど、外部講師を招いての研修ができ、授業にいかすこと

ができた。

- ・防災教育を進めて行くにあたって、小中の教員間での情報共有や共通実践等を図る場となった。

【課題】

- ・小中合同研修会を通じて、9年間を見通した系統的な防災学習の再構築。
- ・9年間を見通した教育課程の編成。

⑤ふれあいPTA・講演会

【成果】

- ・保護者と子どもが同時に共通のテーマ（防災）について高めることができた。
- ・防災コーディネーターの講話を聞き、実際に動画を見ることにより多面的に学習することができた。
- ・身近なもの（段ボール）を活用して簡易トイレを作成したり、非常食（アルファ米）を試食するなど、防災対策として準備しておくことの大切さを学ぶことができた。

【課題】

- ・機会の設定及び調整。

5 今後の取組の見通し

○今後の予定

- ・今回の事業で得られた成果物（先進校の取組等）を市内すべての学校へ情報を共有し、各学校で積極的に活用してもらう。
- ・各学校が作成する危機管理マニュアル（防災マニュアル等）を教育委員会に電子データで提出させ、教育委員会と市の防災部局等と連携し、内容の確認をし、修正が必要な個所については適切に指導していくことを考えている。
- ・発達の段階に応じて総合的な学習の時間等で取り組んでいる防災マップづくりでは、防災及び防犯の視点を盛り込んだマップづくりが求められることから、関係機関と連携し、質の高いマップづくりとなるよう働きかけていく。